



JSB 1000
JAPAN SUPERBIKE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

異次元のタイムを連発してポールポジションを獲得した中須賀克行

驚速ぶりを発揮する中須賀克行+ニューYZF-R1 Team GREENの柳川と渡辺も好調! キット車の山口辰也が健闘しHonda勢最上位!!

開幕戦鈴鹿では津田拓也が、第2戦オートポリスで中須賀克行が優勝し、シリーズ第3戦ソインリンクもてぎを迎えた全日本ロードレース選手権。4年連続6度目のチャンピオンを狙う中須賀が、フルモデルチェンジされたヤマハYZF-R1をライディングし注目されているがニューモデルだけに産みの苦しみを味わっていた。そんな中、第2戦では早くもポールポジションを獲得し優勝を果たした。ただ、第2戦までを見る限り、決まっていなかったマシンをライダー自身の頑張りで速く走らせていた。

その後、先週行われた事前テストまでのインターバルで、マシンの問題点を洗い直し、サスペンションの仕様違いも持ち込んでいた。事前テスト初日の開始早々に2コーナーで転倒するものの、その後は、コースレコードを上回る1分48秒491という驚速タイムを非公式ながらマーク! 20周のロングランを行ったときの記録だっただけに、他を寄せ付けない速さを見せつけ始めていた。その速さはレースウィークに入っても変わらず、金曜日の1本目の走行でいきなり1分48秒656を記録。午後の走行は霧雨が降ってしまいタイムアップはならなかったが、1分48秒台に入れたライダーは事前テストから金曜日までは中須賀以外にはヨシムラの津田拓也のみだった。

公式予選が行われた土曜日は朝から快晴となり、5月の強烈な紫外線がコースに降り注ぎ路面温度

は50度近くまで上昇。タイムを出すには、厳しいコンディションとなっていた。JSB1000クラスは、46台が出走。Q1はA組、B組と2グループに分かれて30分のセッションが行われ津田が、ただ一人1分48秒台に入れる1分48秒952をマークしてトップ。2番手に中須賀、3番手に渡辺一樹、4番手に高橋巧、5番手に柳川明、6番手に野左根航汰、7番手に山口辰也、8番手に浦本修充、9番手に加賀山就臣、10番手に秋吉耕佑と続き初開催となる“トップ10サバイバル”に進出した。

9周のアタックラップで、それぞれの周で一番遅かったライダーが脱落する“トップ10サバイバル”。10名が一斉にコースインし、2周のウォーミングアップラップをこなすと真っ先に中須賀がアタックに入っていく。津田、野左根、山口と続くが、レースではないので、間隔を空けて走るのもあり、前のライダーを目標にして走るのもありだ。それぞれの思惑や戦略が交錯する中、中須賀は、ただ一人、1分48秒に入れながら最速ラップをマークし続ける速さでポールポジションを獲得した。

「とにかく全力で走るしかなかったですし、その中でコースレコードを出せるようにトライしました。残念ながらレコードは出せませんでしたが、最後まで走ることができたので決勝に向けていいシミュレーションになりました。決勝でレコードを出したいですね」と中須賀。今のところ死角はなさそうだ。

2番手に柳川、3番手に渡辺が続き、Team GREENの2台がフロントロウを確保。

「9周ならば2番手になれることが分かりましたが、決勝は23周もあるので、いろいろ考えながら走ろうと思っていますが、チャンピオン(中須賀)が絶好調なので一緒に走ってくれないかもしれませんが、チャンスがあれば行きますよ!」と柳川。一方、ここ2戦ではグリップ重視のライディングをしていた渡辺が、去年のようなスライド走行を見せていた。「レースウィークに入ってから、セッティングの方向性を変えて、走りの幅を持たせるようセットを進めています。その分、遅れている部分もありますがフィーリングはいいですし、決勝は23周と長いのでレース終盤に勝負できるようにしたいですね」とレースに向けて仕上がりは上々のようだ。

4番手に野左根がつけ、前回に続きトップ争いに絡みたいところだ。キット車ながらHonda勢最上位の5番手に山口辰也がつけ、6番手に津田拓也と続いた。3列目には高橋巧、浦本修充、加賀山就臣が並ぶ結果となった。

今回は、中須賀の速さが一発タイムでもアベレージでも群を抜いているだけに、トップを独走する可能性が高いただろう。その後方で2位争いが激しくなることは必至。23周という長丁場で争われる今回のレース。終盤に前に行く余力を残しているライダーが表彰台に上がることになりそうだ。

予選2番手／柳川明



POLE POSITION INTERVIEW



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

**ポールポジション：
#1 中須賀 克行
YAMAHA FACTORY RACING TEAM**

『開幕戦、第2戦と結果だけを見ればいいですが、マシンはまともではありませんでしたし、内情はよくありませんでした。今回はニューR1でツインリンクもてぎを走るのは初めてでしたが、チームが頑張ってくれたおかげで、いいセットが見つかりマシンもまともってきています。しかし、現状で満足することなく、もっと上を見て行こうと思っています。決勝は自分の走りができれば結果が出ると思っているので集中して臨みます』

予選5番手／山口辰也



J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

國峰啄磨が終盤のアタックでポールポジション獲得! 「勝ではぶっちぎりで勝てるような走りをしたい」



國峰 啄磨



**ポールポジション：2分01秒293
#55 國峰啄磨
P.MU 7C HARC**

一部に雲が広がるものの、青空の広がる好天に恵まれたシリーズ第3戦ツインリンクもてぎ大会、公式予選日。

最初の公式予選はJ-GP3クラス。35分×1セッションは、開始当初から、澁田農央、栗原佳祐、水野涼、徳留真紀、三原壮紫らが2分02秒台で上位争いを繰り広げる。中盤頃から各ライダーのアタックはさらに激しさを増し、前回優勝の真崎一輝、國峰啄磨にも上位に上がってくる。

セッションの中盤も上位陣は順位を入れ替えながらアタックを続ける。

残り10分頃、まず三原が01秒台に入れると、続いて栗原も01秒台。さらに國峰、水野、古市右京も続く。そして残り5分頃に國峰が01秒317で遂にトップに立ち、さらにタイムを縮めて01秒293で

ポールポジションを獲得した。2番手は01秒341で栗原、3番手の古市が01秒672、三原が01秒731でセカンドロウ4番手、水野、徳留とこまだが01秒台となった。



栗原 佳祐

『金曜日の練習走行で開始早々に転倒してしまいました。身体の方は打ち身だったのですが、頭を強打したので、予選の走り出しは少しビビっていたんです。それでも最終的に何とかまとまられて、ポールポジションを取れたので良かったですね。出来るだけ身体を休めて、決勝に備えたいと思います。開幕戦で負けたこともありますので、決勝ではぶっちぎって勝てるようにしたいですね』

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

高橋裕紀が2戦連続ポールポジション! 「決勝レースは気を抜かずに戦いたい」

高橋 裕紀



J-GP2クラスの公式予選は、セッションの序盤から高橋裕紀が53秒4でトップに立つと、周回毎に少しずつタイムを削る走りを見せる。生形秀之、関口太郎、岩田悟、関口太郎、日浦大治朗、井筒仁康らが上位につける。中盤にかけて各ライダーとも少しずつタイムアップ。高橋は52秒966に入れ、トップをキープ。2番手の生形は53秒8で続く。

セッション終盤、最後のアタックでは各ライダーともタイムアップ、日浦に続いて岩田も53秒台に入れてくる。関口、上和田拓海、石塚健らもタイムアップするが、高橋のトップは揺るがず、52秒944まで上げてセッションを終了、このクラスの開幕戦オートポリスに続いてポールポジションを獲得し

た。2番手は生形で53秒830、3番手には岩田が53秒875で続いた。セカンドロウは日浦、石塚、関口の順となった。



生形 秀之



ポールポジション：1分52秒941
#1 高橋裕紀
MORIWAKI RACING

『初日の午後が雨でコンディションが悪く、試したかったことが予選でぶっつけになってしまった。予選では1周目にトラブルでピットに戻ったのですが、すぐに直して、その後は決勝の前半を想定して走り、終盤はアタックをしました。自分の昨年のタイムをクリアすることが一つの目標だったので、タイムは自分としては不完全燃焼のところがありませんが、ポールポジションが取れたのは良かったと思ってます。決勝では最後まで気を抜かずに、しっかり走りしたいと思います』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW



横江竜司が終盤のアタックでポール獲得!! 「抜かれても最後に勝負できるようにしたい」

ST600 Supported by BRIDGESTONE



横江 竜司

ブリヂストンのワンメイクタイヤ制が導入され、予選～決勝を通して使えるタイヤは1セットに制限された。それにより、30分間の予選はがらりと様子を变えた。もてぎの予選では、セッション開始とともにコースインをしたのは9台ほど。稲垣誠、中山真太郎が57秒台でトップ2。その後徐々にコースイン車両、ピットに戻る車両と入れ替わり、田尻克行の57秒412に続いて岩戸亮介が57秒182でトップタイムを塗り替える。その後中本郡が56秒822で逆転トップとなる。

セッションの終盤に、前回優勝の大崎誠之、Yamaha Thailand Racing Teamの横江竜司、デチャ・クライサー、チャランボンボラマイが登場し、アタックを開始する。ここで横江が56秒095でトップに立ち、2番手にデチャが56秒398、次いで

チャランボンが56秒507、そして大崎が56秒545でYAMAHA R-6勢が上位を占める。

しかし、セッションの最終盤で大久保光が56秒123で2位に、榎戸育寛が56秒504で4位に割って入り、Honda CBR勢が一矢報いた。



大久保 光



ポールポジション：1分56秒095
#6 横江竜司
Yamaha Thailand Racing Team

『先週のテストでサスペンションを変更して、オートポリスと比べるとベストタイムもアベレージもかなり良くなってきました。ただ、金曜日だけでは変更出せず、予選で思い切ってそれを試して勝負に出たんです。高い路面温度やグリップの状況とかを考え、その中では納得できるタイムだったので、迷ったんですが、アタックは1周で終わりました。そしたら運良くポールが取れた感じです。決勝は上位のライダーはもちろん、大崎さんも絶対に来るとしていますから、出来るだけ逃げたいですが、抜かれたとしても最後に勝負できるような状態に持っていきたいと思います』

MFJ Superbike Round3 SUPERBIKE RACE in MOTEGI 30 - 31 May 2015

公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走46台
●決勝スタート/14:20(23周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	
2	87	柳川 明	TeamGREEN	ZX-10R	
3	26	渡辺 一樹	TeamGREEN	ZX-10R	
4	8	野左根 航汰	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	
5	104	山口 辰也	TOHORacingwithMORIWAKI	CBR1000RR	
6	12	津田 拓也	ヨシムラスズキシェラルアドバンス	GSX-R1000L5	
7	634	高橋 巧	MuSASHi RT/ハルク・プロ	CBR1000RR	
8	73	浦本 修充	MuSASHi RT/ハルク・プロ	CBR1000RR	
9	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	
10	090	秋吉 耕佑	au & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	
***** 以上 公式予選Q2 トップ10サイバイルにて決定 *****					
11	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY	GSX-R1000L3	1'51.304
12	15	JOSH HOOK	F.C.C.TSR Honda	CBR1000RR	1'51.620
13	53	渡辺 一馬	au & テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'51.711
14	39	酒井 大作	CONFINA FLEX Motorrad 39	S1000RR	1'51.855
15	41	伊藤 勇樹	41Planning	YZF-R1	1'52.075
16	135	寺本 幸司	Team Tras 135HP	S1000RR	1'52.426
17	11	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'52.621
18	23	清水 郁巳	ホンダドリーム高崎B'WISE RT中央前橋	CBR1000RR	1'52.725
19	510	高橋 英倫	桜プロジェクト&MF	ZX-10R	1'53.146
20	16	中村 知雅	チームトモサ	CBR1000RR	1'54.244
21	54	中津原 尚宏	オートテックニックススポーツPGR	CBR1000RR	1'54.349
22	19	久保山 正朗	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR1000RR	1'54.439
23	25	武石 伸也	CONFINA Flex Motorrad 39	S1000RR	1'54.583
24	810	高田 達人	8810RWITHNKB	S1000RR	1'55.183
25	13	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1098R	1'55.384
26	136	児玉 勇太	Team Tras 135HP	S1000RR	1'55.734
27	36	原田 洋孝	RSレーシングハラダ姫路	ZX-10R	1'56.364
28	38	山中 正之	HondaQCT明和レーシング	CBR1000RR	1'56.569
29	80	佐藤 宏司	モトアルファ	GSX-R1000	1'56.922
30	77	佐藤 直之	TeamSTR&MagicInjector+AKB・MC	S1000RR	1'56.964
31	86	中村 勇志	レンタルバイク横浜・丸富オート	1190RCBR	1'57.211
32	62	塩原 弘志	S・SPPLY&おやじ組	GSX-R1000	1'57.246
33	72	大賀 貴彦	ロケットケロタン&ネオラゲナ	CBR1000RR	1'57.257
34	88	福永 大輔	OutRun Motorrad Tokyo-bay	S1000RR	1'57.279
35	112	栗林 剛	Honda EG レーシング	CBR1000RR	1'57.384
36	27	井上 健志	炎R-MOTOBUM	CBR1000RR	1'57.572
37	69	宮崎 圭央	FAST R-T	S1000RR	1'57.600
38	113	本田 恵一	Honda EG レーシング	CBR1000RR	1'57.720
39	45	森 健祐	HondaブルーヘルメットMSC熊本	CBR1000RR	1'57.908
以上予選通過車両:					
705	黒川 武彦	保険職人SPEED Party	CBR1000RR	1'58.487	
70	佐藤 慎一郎	佐藤家レーシング&中村エンジン	GSX-R1000	1'58.718	
91	尾崎 和久	ADVANCE MC & FOC CLAYMORE	GSX-R1000	1'58.735	
75	中澤 純也	S・Supply・Ai・たなか齒科おやじ組	GSX-R1000 L2	1'59.153	
31	菊地 敦	TEAM・WILD☆HEART	CBR1000RR	1'59.395	
47	喜多田 学	(有)成田総合TS関東+ストラトス	1199Panigale	2'02.302	
79	中澤 孝之	DOG FIGHT RACING・YAMAHA	YZF-R1	計測できず	

以上公式予選Q1にて決定:
参加台数 46 台 出走台数 46 台 予選通過基準タイム (総合 108 %) 1'57.992
※トップ10サイバイルにて決定した順位は、タイム順ではありません。



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走20台
●決勝スタート/13:00(19周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	MD600	1'52.941
2	2	生形 秀之	エスパルストリームレーシング	GSX-MFD6	1'53.830
3	10	岩田 悟	NTST.ProProject	NH6	1'53.875
4	35	日浦 大治朗	MORIWAKI RACING	MD600	1'53.916
5	95	石塚 健	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'54.018
6	44	関口 太郎	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	1'54.148
7	81	上和田 拓海	Webikeチームバリックヤマハ	YZW-N6	1'54.338
8	11	井筒 仁康	WILL-RAISERACINGRS-ITOH	ZX-6R	1'54.411
9	18	瀧美 心	au&テルル・KoharaRT	TSR2	1'54.713
10	9	大木 崇行	MOTOBUM HONDA	CBR600RR	1'54.947
11	15	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR2	1'55.740
12	46	星野 知也	SYNCEGE 4413 Racing	HP6	1'55.813
13	70	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'56.010
14	392	長尾 健吾	ミクニ テリアードカリー	GSXR600	1'56.325
15	36	亀井 駿	NTST.ProProject	NH6	1'56.719
16	71	山元 聖	Team KAGAYAMA	GSX-proto71	1'56.876
17	16	中村 豊	MOTOBUM HONDA	CBR600RR	1'56.979
18	26	小口 亘	ALLMAN&OWRACING	YZF-OWR6	1'58.913
19	29	赤間 清	MISTRESA with HARC-PRO.	HP6	2'00.899
20	57	佐久間 孝司	ワイズエンジニアリング	YZF-R6	2'02.224

以上予選通過車両:
参加台数 20 台 出走台数 20 台
予選通過基準タイム (110 %) 2'04.235



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走28台
●決勝スタート/15:45(18周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	6	横江 竜司	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'56.095
2	39	大久保 光	YImobile&Kohara RT	CBR600RR	1'56.123
3	46	Decha KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'56.398
4	38	榎戸 育寛	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'56.504
5	65	Chalermpol POLAMAI	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'56.507
6	3	大崎 誠之	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'56.545
7	9	近藤 湧也	GBSレーシング YAMAHA	YZF-R6	1'56.738
8	14	前田 恵助	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'56.785
9	24	中本 都	リリカ AMENA with OutRun	YZF-R6	1'56.822
10	12	津田 一磨	MotoMap WestPower	GSX-R600	1'56.834
11	7	稲垣 誠	AKENO・SPEED・MIC	YZF-R6	1'57.077
12	45	岩戸 亮介	Team高武 RSC	CBR600RR	1'57.182
13	16	奥野 翼	AKENO SPEED	YZF-R6	1'57.392
14	54	田尻 克行	Team RSC	CBR600RR	1'57.412
15	15	中山 真太郎	TEAMしんたろう with KRT	CBR600RR	1'57.724
16	51	宗和 孝宏	51ガレージ チームイワキ	YZF-R6	1'58.255
17	40	伊藤 和輝	YImobile&Kohara RT	CBR600RR	1'58.311
18	27	高橋 颯	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'58.489
19	32	矢田 栄一郎	GBSレーシング YAMAHA	YZF-R6	1'58.509
20	29	長嶋 修一	石井りんご園モトアルファ	CBR600RR	1'58.687
21	41	澤村 俊紀	HondaDream高崎B'WISE RT中央前橋	CBR600RR	1'58.752
22	60	遠藤 恵太	研友会PGLレーシング	CBR600RR	1'59.274
23	73	水澤 笑太郎	MuSASHi RT Jr.	CBR600RR	1'59.326
24	82	名越 哲平	MuSASHi RT Jr.	CBR600RR	1'59.341
25	50	櫻井 賢一	ホンダドリーム高崎B'WISERT中央前橋	CBR600RR	2'00.990
26	58	平野 伸一	Team Hirano+I-FC	CBR600RR	2'01.289
27	34	武田 数馬	浜松チームタイタン	GSX-R600	2'02.130
28	57	飯島 高広	中村エンジン研究所	CBR600RR	2'02.366

以上予選通過車両:
37 蒲谷 朋大 チームスガイレレーシングジャパン ZX-6R 出走せず
参加台数 29 台 出走台数 28 台
予選通過基準タイム (110 %) 2'07.704



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走32台
●決勝スタート/10:45(20周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	55	Y	國峰 琢磨	P.MU 7C HARC	NSF250R	2'01.293
2	12	Y	栗原 佳祐	MuSASHi RT Jr	NSF250R	2'01.341
3	10		古市 右京	KTM RACING. ASPIRATION	RC250R	2'01.672
4	40	Y	三原 壮紫	Team NOBBY & TEC2	NSF250R	2'01.731
5	634	Y	水野 涼	MuSASHi RT/ハルク・プロ	NSF250R	2'01.849
6	4		徳留 真紀	TOME TEAM PLUSONE	NSF250R	2'01.861
7	17		濫田 晨史	TEAM・i-FACTORY	NSF250R	2'02.073
8	39	Y	真崎 一輝	Team RSC	NSF250R	2'02.144
9	410		宇井 陽一	41Planning.GlobalCommunication	TR004	2'02.721
10	26	Y	関野 海斗	P.MU 7C HARC	NSF250R	2'02.759
11	24	Y	船田 俊希	FLEX Racing TEAM	NSF250R	2'02.810
12	28		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブR.T	PRCS3	2'02.844
13	11		菊池 寛幸	TEAM TEC2 & NOBBY	NSF250R	2'03.017
14	45	Y	太田 虎之進	CLUB PLUSONE	NSF250	2'03.127
15	22		岡崎 静夏	YImobile&Kohara RT	NSF250R	2'03.204
16	23		高杉 奈緒子	モトバムwithヒポボタマス	NSF250R	2'03.257
17	27	Y	南本 宗一郎	オーテック・スズカ+RGニワ	TSR3	2'03.377
18	21		大内田 拓	オーテック・スズカ+RGニワ	NSF250	2'03.416
19	20		山本 恭裕	チームライフ・ドリーム北九州	NSF250R	2'03.504
20	46		村井 浩志	ZAPPERRacing with YERC	NSF250R	2'03.800
21	41	Y	佐取 克樹	41Planning	NSF250R	2'03.879
22	36		野澤 秀典	ノザレーシングファミリー	NSF250R	2'04.128
23	30	Y	中山 愛理	TECHNICA with KUSHITANI 西宮	NSF250R	2'04.196
24	31		Gerry Salim	Astra Honda Racing Team	NSF250R	2'04.401
25	47		古澤 幸也	FLEX Racing TEAM	NSF250R	2'04.616
26	37		川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA	NSF250R	2'04.965
27	48	Y	布施 元紀	ENDLESS TEAM SHANTI GP3	NSF250R	2'05.165
28	34		岸田 慶一	FLEX Racing TEAM&MH OHARA	NSF250R	2'05.174
29	99		白石 玲菜	41Planning	NSF250R	2'05.751
30	44		小沢 良美	GARAGE.M&(有)石原商店	NSF250R	2'06.484
31	91		神永 竜虎	モトアルファ	NSF250R	2'06.545
32	32		畑中 要	FTR・タイヤナビ・樹道藤住宅	NSF250R	2'07.129

以上予選通過車両:
参加台数 32 台 出走台数 32 台 予選通過基準タイム (110 %) 2'13.422
Y=YouthCup登録ライダー

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!
今シーズンはレース6日後の土曜日夜7時から!

2015年シーズンも全日本ロードレース選手権シリーズ全戦を「BS12 TwellIV(トゥエルビ)」で完全無料放送。しかも、今シーズンはレース開催6日後の土曜日夜7時から放送です!
迫力のバトル、車載カメラによる映像などをお楽しみください!!

■放映スケジュール

第3戦もてぎ

6月6日(土) 19:00~19:55

ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM

コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信! スマホ対応です。

YouTube

YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

MFJ Live CHANNEL

TV収録用高画質映像は決勝レース終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>